

令和2年度業務監査報告

監事 菅原貞芳



1 法人経営・事業運営について

令和2年度業務内容を「コロナ禍における職員研修」と「各種補助金とサービスの質の向上」の2つの視点から振り返りたい。

(1) コロナ禍における職員研修

1) コロナ禍で対面研修が中止になったり、オンラインでの研修に代わったりしましたが、当会では積極的にオンライン研修等が積み重ねられました。

また、令和2年度宮城県老人福祉施設協議会主催の実践研究発表会が中止となり、職員の実践を発表する場が無くなったことは残念でしたが、コロナ禍にあっても加算取得に必要な研修履修者が15名と着実に増えていることは特筆すべきことです。特に、資格取得に係る本人の必要経費分を資格取得後に資格取得報奨金として継続的に支給されていることは職員の研修意欲と勤労意欲の更なる向上につながる当会ならではの取組と言えます。

2) 当会は平成24年度から宮城県喀痰吸引等事業者として登録していますが令和2年度には新たに4名の研修修了者を加え、法人全体で喀痰吸引研修修了者が33名となりました。このような多数の喀痰吸引研修修了者が勤務する社会福祉法人は県内では大変めずらしい存在となっております。

3) 令和3年2月には、大谷デイサービス利用者1名の新型コロナウイルス感染の陽性が判明した後、組織をあげての迅速な対応がありました。

令和2年9月には看護課を中心に「新型コロナウイルス感染症発生防止のためのロードマップ」を職員行動・会議系、入所系、通所系と3通りに分けて作成し何度も改訂を重ね吟味してきたことと苑長・事務長のリーダーシップで今回、以下のような多岐にわたっての「組織としての的確・迅速な対応」につながったと言えます。

- ① 関係機関への報告と受けた指示内容の確実な実施
- ② 関係職員への周知及び指示
- ③ 事実の確認や今後の対応について共通理解を図るオンラインでの緊急課長会議の開催
- ④ 春闘会ホームページへの事実の掲載（個人情報を除く）
- ⑤ ケアマネージャーと法人内全事業所の利用者様への状況報告
- ⑥ 利用者様へのサービス利用の意向確認

(2) 各種補助金とサービスの質の向上

1) 国及び県の各種補助金の申請を積極的に行い、ICT (Information and Communication Technology) 化を推進することで業務の効率化とサービスの質の向上につなげております。

- ① 拠点間の課長会議でWEBミーティング形式で開催。紙ベースでの資料

を iPad で各自閲覧できることとなりました。〈情報や知識の共有〉

- ② 介護現場の職員がバイタル（呼吸、体温、血圧、脈拍等）の測定結果の手作業での入力介護情報記録化システムにより不要となり、身体的・精神的負担が大幅に軽減されました。〈安全性の向上〉
- ③ 栄養ケアマネジメントに係るソフトの導入で、献立作成及び発注管理の業務が軽減されました。〈業務の効率化〉

2) 多様な補助金を積極的に申請し、その補助金の活用により、以下の例のように施設環境の充実が図られております。

空気清浄機・エアコン・大型発電機の配置、見守り機能付き電動ベッドの配置、AI搭載エアマットの配置、軽自動車1台配置（大谷デイ）、新型コロナウイルス発症に備えた陰圧装置4台配置

2 次年度に向けて

- (1) 利用者様へのアンケート調査（満足度調査）を継続してほしいと考えます。職員の取組を利用者様やご家族がどのように評価されているのかを把握することは『経営理念(4)「開かれた苑づくり」』の実現につながります。自己評価は時として他者による評価よりも甘くなります。利用者様へのアンケート調査を実施することは、サービスの質の向上を図るためのポイントを知る機会を得ることでもあります。利用者様に寄り添う春園会職員の真摯な取組を広く発信するためにも、当会職員の取組の良さを、あえて利用者様やご家族様の声で示すことに大きな意義があります。なお、アンケート調査に使う文言は「職員倫理綱領」や「春園会接遇方針」の文言を活用することも考えられます。
- (2) 令和2年度のインシデント（事故に至らなかったミス）について、その発生時間、発生場所、種類別発生状況の集計が不十分であったことがリスクマネジメント委員会から報告されています。インシデントの発生時間、発生場所、種類別発生状況等について集計しやすくするために、関係する部署のインシデント記録用紙の様式（記入項目）を吟味・統一した上で、週ごとの集計を確実に積み重ねていくシステムづくりが求められます。
- (3) 重点目標を絞り、リーダーを中心に積極的に取り組んでいる部署が多く、課題解決に向けた意欲的な取組や工夫が各リーダーとの面談から感じられました。今後に向けて、事業報告書で「～を目指し取り組みを実践しました」という表現が何をどのように実践したのかが具体的に分かる記述にしたいものです。また、事業計画書の各部署の重点目標の「～に努める」という部分については「努める」内容を「どのような方法や手段でこの一年行うのか」という視点から具体的に各リーダーが押さえられ、傘下職員へのアドバイスができればと思います。
- (4) 新型コロナウイルス感染拡大防止にこれまで鋭意取り組まれていることに敬意を表します。今後とも油断なく対応されますようお願いいたします。